



SAKURA

The tip of an

ICeberg

The tip of an ICeberg=氷山の一角

感染制御は見える部分だけでなく、見えない部分に多くの課題があることの象徴です

アイシーバーク
サクラニュースレター

No. 20

Serving Global Healthcare with Sakura Tradition and Innovation

Contents

感染制御トピック

JCI認定施設での中材部門における対応について

REPORT

過酸化水素滅菌装置の更新を通じて感じたこと

知っておくと便利な サービス豆情報

キャリブレーションについて



感染制御トピック JCI 認定施設での中材部門における対応について

公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院
資材部 中央材料室 室長 荻野 栄二

JCI(Joint Commission International)とは継続的な「患者安全と医療の質改善」を目指す国際版医療評価機構です。当院におけるJCI受審履歴は以下の通りです。

- ◆ 2016年3月 初回審査を受審
- ◆ 2019年3月 第2回審査(更新)を受審
- ◆ 2022年3月 第3回審査(更新)予定

最も重要な審査項目としては、IPSG(International Patient Safety Goals: 国際患者安全目標)の6項目です。医療安全の根幹となる部分で、全ての職員(委託業者等を含めて)が理解して適正に運用されなければなりません。この達成のために、全職員へハンドブックが配布され周知を進めながら、職員への意識付けのため、講演会や研修会を行い多くの時間を使ってJCIの意義や目的・価値などが丁寧に説明されました。

初回審査までに準備した重点事項としては病院全体で取組んだ5S(整理・整頓・清潔・清掃・しつけ)活動が最も時間を要した事でした。

院内すべての部署で取組み、それこそ、隅から隅まで片付ける。見えるところ、見えないところでも不要なものは置かない。これらを徹底して行った結果、倉敷中央病院では、廊下に物が無い状態となりました。

中央滅菌センターでも器材の在庫管理・適正な定数・収納位置決め・物品・器材名の表示統一・水回りの整理整頓・洗剤・薬品類のSDS(安全データシート)をいつでも確認できるようにファイルへの整頓、スピルキット・洗眼キットと一緒に配置し、使用訓練などを行いました。

JCIで、中央滅菌センターを評価する項目としてはPCI(Prevention and Control of Infections:感染の予防と管理)に規定されています。PCIで求められる項目としてはモックサーベイ(模擬審査)を受けることで具体的になりました。院内全体での消毒・滅菌手順の統一、歯科・病棟での洗浄や滅菌操作が改善事項となりました。すべての器材洗浄・消毒・滅菌については中央滅菌センターの責任において実施される必要があるという事です。

また、清潔・不潔エリアの厳格化、各部門、部署においても明確に分けることが求められました。それ以外にも非常に多くの改善を必要とする項目があり、一つ一つ確認して対策を実施する必要が生じました。そこで院長以下職員が一丸となって取り組む必要があり、問題ごとに担当者を決めてワーキンググループを立上げて解決に取り組むことになりました。今まで当たり前として実施していたことでもそのエビデンスを具体的に示せるかが重要でした。

2回目の受審時には品質改善活動が求められました。部

署ごとに品質改善テーマを決めてデータ収集を行い分析し改善に取り組む、その結果とプロセスを報告する。

この活動は現在に至っても毎年実施しています、JCI事務局がサポートする体制が出来ています。その他にも、現場トレース時に1回目とは違う視点で多くの手順を確認されました。

サーベイヤーが何を求めているか、それを事前に予測して回答の準備と資料提示が出来るようにする必要がありました。対応策の一つとして、器材のトレサビリティ確立のため使用している、滅菌物品管理システムのPC画面を使って、洗浄・組立・滅菌完了後に払出し、器材と患者コードの紐づけについて説明を行うなどでした。

現在は来年に予定されている3回目の更新審査に向けて準備をしています。今回の更新審査ではリモート審査も予定されているので、確認ポイントをどのように説明するかなど、今までになかったことも検討・想定しながら、コロナ禍での中材での対応についてのまとめなど準備しています。

JCIに終わりはなく、常に医療・患者安全を第1に考える必要があります。ただ特別な事ではなく日常の業務が医療・患者安全に繋がるように自分達の仕事を客観的にみて、自己評価そして、他者評価により改善を続けることが重要だと考えています。



管理システムモニター画面



当院中央材料室で使用している主な滅菌装置

過酸化水素滅菌装置の更新を通じて感じたこと

名古屋市立大学医学部附属西部医療センター
手術室 師長 藤本千春

当院は2011年5月に名古屋市立西部医療センターとして名古屋市北区に誕生し、多くの市民の皆さまと地域医療機関の方々に育てられて参りました。年間の分娩件数は1,100件を超え、手術件数は4,000件以上と順調に発展してまいりました。2021年4月から名古屋市立大学医学部附属西部医療センターとして、新たにスタートを切りました。

中央材料部は開院当初から、受託業者さんと委託契約を行い運営しております。また、滅菌物管理システムを使用して回収～払出しまでを管理しております。1カ月の器材滅菌件数は約1,400件です。保有する滅菌装置は、オートクレーブ3台と低温（過酸化水素）滅菌機2台と小型オートクレーブ1台で滅菌業務を行っており、EOG滅菌は院外滅菌に出しております。低温滅菌は病棟で使用する乳首や搾乳機、外来で使用する軟性鏡を中心に運用を行っており、EOG滅菌は脳波電極やオペで使用する器材の一部に使用されています。

今年の1月にリース期限満了が迫っていたこともあり、過酸化水素滅菌装置の更新を検討することになりました。メーカーは複数ありますので数社を候補に選定し、中央材料室スタッフとともに選定ポイントも検討しました。主な選定ポイントは、「泌尿器の軟性鏡の処理本数が多く、その日のうちに滅菌が終了しないため改善したい。」「包装材料に滅菌バッグを用いた運用を続けたい。」「器材適合数が多いこと。」「チャンバーが広く使える。」「新人スタッフでも使用方法が分かりやすいこと。」などが上がりました。また、現状のみでなく将来のロボット支援手術の導入も視野に入れる必要がありました。



業務を支える中央材料部スタッフ

選定ポイントについて各社の説明を受け情報収集を行い、ランニングコスト比較なども行いました。また、短期間ではありますが臨床試用目的で装置を借用し実際に運用も行いました。実際の試用を通じた感想をスタッフから募り、どの装置が



当院の運用に最も適しているかを検証いたしました。実際に使用してみると、メーカーの説明を聞くだけでは気付かなかったこともあり、当院の場合は大変有効だったと感じました。ご施設によって事情は異なると思いますが、試用が可能であれば試してみることをお勧めいたします。

これらの検討を通じ、最終的に納得して機種を決定することが出来ました。その機種では、懸案であった軟性鏡の滅菌処理（専用プログラム、滅菌バッグによる包装など）に対して柔軟に対応できるであろうという評価となりました。導入後の実際の運用では、専用プログラムの使用により軟性鏡の保有数を増やすことなく回すことができおり、業務改善を実現することができたと思っています。課題や選定ポイントを現場スタッフと共有し、丁寧に検証していくことはとても大切なことであると改めて感じた事例でした。

導入されてから大きな問題もなく現在に至っておりますが、過酸化水素滅菌剤のコストはEOGと比べると高価なため、もう少し安価になると更に助かります。是非メーカー各社さんには頑張ってもらえれば有難いと思います。

以上が当院にて過酸化水素滅菌装置を更新した際の事例のご紹介となります。少しでも他のご施設において参考になれば嬉しく思います。

知っておくと便利な

サービス豆情報



キャリブレーションについて

今回はキャリブレーションについてお話してみたいと思います。

キャリブレーション(校正)とは「計器類の狂い・精度を、標準器と比較し直す事」です。

例えば、皆さんが普段使用している体重計ですが、乗った時に示した値は本当に正しいでしょうか?自分が思っていた体重より大きな値が出た場合“ウソでしょ!”と思う事がありますよね。値が本当に正しいかどうかは「正確な100kgの重り」を乗せてみます。もし値がズれている場合は、正しい値を表示するように調整します。これがキャリブレーション(校正)です。間違いなく正しい値を表示する体重計であれば、使用する誰もが納得しますよね。

洗浄機や滅菌機には温度計や圧力計、タイマーといった計器類が使用されています。標準器を用いてその計器類をキャリブレーションすることで、洗浄・滅菌温度、洗浄・滅菌時間が正しい事が保証されます。メーカーが計器類のキャリブレーションを行った場合は、結果は報告書として提出されますので、

記録として残す事ができます。

洗浄機や滅菌機を使用する側だけでなく器材を使用する人、そして患者様に対しても安心と安全を提供する事ができますので、キャリブレーションを定期的に行なう事をお勧めします。



標準器
(正確な115℃の温度)



キャリブレーション実施前(温度がズれています)



キャリブレーション実施後(正確な温度が表示されています)

メールマガジン配信始めます!

アイシーバーグ発行のお知らせやお役に立つ情報をメールマガジンでパソコン・タブレット・スマートフォンへお届けいたします。ご希望の方は当社ホームページよりお申込み頂けます。9月末にお申込みページがスタートできる予定です。みなさまのお申し込みをお待ちしております。



アイシーバーグ

検索



編集後記

貴重なお時間を頂き、最後までお読み下さりましてありがとうございます。

まだまだ暑い日が続きますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今年の夏は、弊社初のメールマガジン配信で頭がいっぱいでした。

HTMLふむふむ。CSSソース?FFFTPを起動???次々出てくる聞いたことのないIT用語に苦戦の夏でした。今後、少しずつ内容を充実させ、お役に立てる情報をメルマガでもお届けしていきたいと思っております。どうぞ次号もご期待ください。



本情報誌に関する

ご意見・ご感想をお待ちしております。

ご協力お願い致します。

E-mail:iceberg@sakurajp.com

サクラ精機 ICeberg編集部

サクラ精機株式会社

編集・発行:サクラ精機株式会社 感染制御事業本部

〒104-0033 東京都中央区新川1-25-12 新川フロンティアビル

ホームページ <https://www.sakurajp.com>

サクラニューズレター[ICeberg] アイシーバーグ

No.20 2021年9月15日発行

QRコードを読み取ると、バックナンバーをご覧いただけます。

